

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(7月8日～7月14日)

2024年7月24日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ベラルーシ・中国外相会談(7月8日、於:北京)
- ロシアの無人航空機のベラルーシ領空侵入(7月12日、13日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ジンバブエ及びナイジェリアの大統領夫人との会談

・両大統領夫人は、ヴィテプスク市で実施された祭典「スラヴヤンスキー・バザール」へ出席するため、ベラルーシを訪問。

・ルカシェンコ大統領は、7月10日、ジンバブエ及びナイジェリアの大統領夫人とそれぞれ会談。

・ムナンガグワ・ジンバブエ大統領夫人との会談において、ルカシェンコ大統領は、ムナンガグワ・ジンバブエ大統領のベラルーシ訪問を待ち望んでいる旨発言し、保健制度や子どもの栄養などの点でベラルーシは常にジンバブエに寄り添い、可能な全てのことを行う旨述べた。

・ティヌブ・ナイジェリア大統領夫人との会談において、ルカシェンコ大統領は、ティヌブ・ナイジェリア大統領のベラルーシ訪問とルイジェンコフ外相のナイジェリア訪問への期待を表明。産業、農業、加工業において、ベラルーシがナイジェリアを支援する用意があると述べた。

(7月10日 大統領府)

【外交】

●ベラルーシ・中国外相会談(於:北京)

(1) 二国間協力、国際場裡における連携、世界的な安全保障、地域レベルの安全保障等につき協議。また、ベラルーシにおける社会的意義のある施設の建設のため、中国からの無償資金を活用することも協議。

(2) ベラルーシは中国に対し、特に以下の事柄で支持を表明。

・誰もがアクセスできて寛容であることを基本とする経済のグローバル化に関する習近平・中国国家主席のイニシアチブ

・中国政府による、国民の再統合を達成し、国家主権・安全・発展の利益を擁護することに関するあらゆる取り組み

(3) 中国はベラルーシに対し、特に以下の事柄で支持を表明。

・ベラルーシが、将来的な BRICS 正式加盟を視野に、BRICS パートナー国の立場の取得を申請すること

・ベラルーシが提案する、多極的で多様な 21 世紀に関する憲章に対し、引き続き両国共同で作業を進めること

(4) 両国は、特に以下の事柄に関して外交面で協調。

・公正で多極的な世界秩序を相互に支持し、不法な圧力行使や内政干渉に反対し、国際社会においてこうした問題を引き続き共同で提起する

・既存の様々な紛争を平和的に解決する

(7月8日 外務省)

●ルイジェンコフ外相と劉建超・中国共産党中央対外連絡部長の会談

・政治分野での協力、地域レベルの様々な機構や国際機関を通じた連携をはじめ、ベラルーシ・中国二国間関係におけるその他の事項についても協議。

・特に以下の分野における両国の立場の一致を強調。

① より公正で多極的な世界秩序を推進する必要性

② ユーラシア地域における紛争の解決に関し、可能な限りあらゆる努力を行う必要性

・ルイジェンコフ大臣は、中国との関係進展がベラルーシ外交の戦略的な方向性である旨強調。

・劉建超部長は、中国共産党中央委員会とベラルーシ大統領府の連携と、ベラルーシとの政党間での交流を今後とも進展させる意向を表明。

(7月9日 外務省)

●ポーランド国境をめぐる状況

(1)EUによる対ベラルーシ制裁の影響によるポーランド国境での検査の厳格化

・6月29日に導入されたEUによる新たな対ベラルーシ制裁の影響で、特にポーランドが7月4日以降、ベラルーシへ出国する者を厳しく検査しており、特定の商品を所有していた者はポーランドで購入品を返品したり、値札をはがして中古に見せかけたりしたとの事例が複数報告されている。

・ベラルーシからEUへの持出禁止商品及びEUへの持込禁止商品のうち、個人の出入国審査に最も影響のあると見込まれる商品は以下のとおり。なお、禁止措置の対象商品は新品に限られ、明らかに個人が所有、使用していると見られる場合は対象外。

| EUからの持出禁止 | EUへの持込禁止 |
|--|---|
| ・スマートフォン等電子機器 | ・スマートフォン等電子機器、家電製品 |
| ・衣服 | ・衣服及び革靴、かばん、スーツケース |
| ・ガソリンや車の部品、1,500cc以上の乗用車 ・5,000ユーロ以上の価格のバイク ・5万ユーロ以上の価格の旅客輸送機関 | ・乗用車 |
| ・レンガ、コンクリート等家屋の建設に必要な商品 | ・家具 |
| ・キャビア、トリュフ、スープ、キノコ、均質化された食品等の食品 | ・甲殻類 |
| ・たばこ | ・たばこ、度数の高いアルコール飲料 |
| | ・清掃用品、衛生用品 (衣類や衛生用品等で、明らかに旅行者本人または家族が個人的に使用することが目的と見られる商品は対象外) |

(2)ポーランドは、ベラルーシで登録された自動車に所有者が乗車していない場合は入国を禁止

・7月10日、ポーランド税関は、EUによる対ベラルーシ制裁の一環として、ベラルーシで登録された自動車にその所有者が乗車していない場合は、ポーランドへの入国を禁止する措置を導入(所有者は必ずしも運転している必要はないが、乗車している必要がある)。

・販売目的ではなく、EU域内に入ることを許可する有効な査証または滞在許可証を所持するベラルーシ国民が所有する車両の入国は許可。

(3)対ベラルーシ国境に配置する兵士の増員

・ベイダ・ポーランド国防次官は、8月1日以降、対ベラルーシ国境に配置する兵士の数を3倍に増やし、1万7,000人とする予定である旨発言。さらに、国境を守るため、装甲車150台を新たに購入する予定がある旨付言。

(7月10日「ゼルカロ」)

●在ウィーン国際機関ベラルーシ代表部は、ラトビア、リトアニア、ポーランド代表部による非難を拒否

・在ウィーン国際機関ベラルーシ代表部は、ラトビア、リトアニア、ポーランド代表部が、「ベラルーシが移民を道具として利用しているかのような非難を行った」ことに対して、断固として非難を拒否する旨発表。

・また、上記3か国が国境で移民を不法に強制排除して死者も発生させていると指摘し、国境の問題に関する協力が一方的に打ち切られたのに対しベラルーシが多くの措置を講じて不法移民の流入を着実に減少させることができた旨強調した。

(7月12日 国営ベルタ通信)

【内政】

●2020年大統領選挙以降閉鎖されたNPOは1,696団体(2024年6月現在)

(7月9日 Lawtrend)

●エドゥアルド・ババリコ氏に新たに2年の自由剥奪刑

・同氏は、2020年の大統領選挙に出馬したヴィクトル・ババリコ「ベル・ガスプロム銀行」元頭取の子息で、2023年7月に8年の自由剥奪刑が宣告された。

・今次裁判で、同氏は、「自由剥奪刑が執行される矯

正施設の管理者の要求に悪意を持って従わない」罪で、さらに2年の自由剥奪刑を宣告された。

(7月12日「ポジルク」)

●7月12日現在の政治犯の数は1,403人

(7月12日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●ロシアの無人航空機のベラルーシ領空侵入

(1)7月12日「ベラルスキ・ハユン」発表

・7月11日夕刻、ロシアが発射した「シャヘド」型の自爆攻撃型の無人航空機(UAV)がベラルーシ南東部ゴメリ州に侵入し、少なくとも1時間ベラルーシ領空内で滞空。ウクライナのメディアが当該 UAV のベラルーシ侵入の第一報を出したのは20:27。

・しかしそれ以前の18:30ごろから、ベラルーシ空軍・防空軍所属の戦闘機や戦闘ヘリコプターがゴメリ州に向けて相次いで飛び立ち、第一報が出た頃にはゴメリ州上空から離脱。

・ベラルーシ軍の部隊は、UAV が予定外の動きをしていた際にとるべき行動をわきまえていて、ベラルーシ領空をしっかりと管理していたと言える。

(2)7月13日「ベラルスキ・ハユン」発表

・7月13日未明、ロシアが自爆攻撃型の「シャヘド」とみられる無人航空機(UAV)5機を使用してウクライナを攻撃。ウクライナ軍はそのうち4機を撃墜。

・残った1機の「シャヘド」がゴメリ州からベラルーシ領空に侵入。そのまま北上してミンスク市近郊の都市付近を飛行した後、ヴィテプスク市まで約350kmにわたって飛行。ベラルーシ軍機も迎撃に上がっていた。

・当該 UAV のその後は、撃墜や墜落の情報もなく不明。

(7月12日、13日「ベラルスキ・ハユン」)

●民間軍事会社「ワグネル」がベラルーシ国内で勤務する傭兵を募集

・「ワグネル」の教官が運営する Telegram のチャット「祖国(Otechestvo)」では、ベラルーシやアフリカ地域で働く傭兵の募集が行われている。

・募集には、「司令官は、「ロシアの英雄ロータス」(エ

リザロフ「ワグネル」司令官のこと)が務める。同司令官は、以前同様、祖国のためにアフリカ(マリ、リビア、中央アフリカ)及びベラルーシで活動している。仕事は多く、全ての方面での募集が行われている。特に、ベラルーシ国民にとっては、砲兵隊への配属の提案は興味深いものである」と記載されている。

(7月12日 Telegramチャンネル「祖国」、「ゼルカロ」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(7月8日~7月14日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも15人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも210人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも274人を阻止。

(7月9日~7月15日「ポジルク」)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

・7月9日~12日にかけて、米国を訪問。NATO 首脳会合の枠内で、シコルスキ・ポーランド外相、カッラス・エストニア首相、リパフスキー・チェコ外相、ギルヴァドツティル・アイスランド外相ともそれぞれ会談。

・7月10日、「ゼルカロ」のインタビューに対し、EUとの国境をめぐる状況に触れ、民主勢力は旅客輸送の可能性を保つために活動している旨発言。

(7月16日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

●アレクシエーヴィチ氏を含む51人のノーベル賞受賞者が、ウクライナ及びガザ地区での停戦と和平交渉開始を呼びかけ

・アレクシエーヴィチ氏は2015年にノーベル文学賞を受賞したベラルーシ人の作家。

・51人のノーベル賞受賞者らは、紛争当事国や国連、各宗教指導者らに宛てて停戦の呼びかけを行っており、パリ五輪の期間中、呼びかけに加わるよう求めた。

(7月13日「ゼルカロ」)

【統計等】

●リトアニアに居住するベラルーシ人に関する統計

・6万2,535人(7月1日時点)

・6万2,167人(本年1月時点)

(7月9日「ゼルカロ」)

(了)